

# 生活習慣病を予防しよう

普段の生活の中で、「生活習慣病」という名前をよく耳にするようになりました。がん、脳卒中、心臓病の3つだけで、日本人の死亡原因の6割を占めています。

多くの生活習慣病の元凶として、メタボリックシンдро́м（内臓脂肪型肥満）の存在が明らかとなつたいま、危険サインを見逃さず、予防に心がけましょう。



**●食生活を見直しましょう**

内臓脂肪を溜めないために、次の「食生活改善10か条」を守り、食生活を見直してみてはいかがでしょうか？

**食生活改善10か条**

- ①1日3食、規則的に食べる
- ②腹8分目を守る
- ③早食い、ながら食いを避ける
- ④よくかんで食べる
- ⑤食物繊維の豊富なものから先に食べる
- ⑥好きなものでも一人前、適量を守る
- ⑦手の届きやすい場所に食べ物を置かない
- ⑧食器を小ぶりのものにする
- ⑨夕食は夜9時までには済ませる
- ⑩洋食よりも和食を

△市で実施している生活習慣病予防の事業  
市では、生活習慣病を予防するため次のような事業を実施しています。

**●個別健康教育**  
基本健診の結果、血圧・血糖・脂質・喫煙などの検査項目で、

**●国保ヘルスアップ講座**  
今年度から国民健康保険被保険者で基本健診の結果、生活習慣の改善が必要な方を対象に、個別面接や集団での栄養・運動教室を実施しています。



●個別健康教育

基本健診の結果、血圧・血糖・脂質・喫煙などの検査項目で、

健康推進課

32 · 3000

問合先



あなたはメタボリックシンдро́мではありますか？

おへその高さで測った腹囲が以下の数値以上である。  
・男性…85 cm  
・女性…90 cm

はい

次のうち2つ以上当てはまる項目がある

- 血圧 収縮期（最大）血圧が130 mmHg以上または拡張期（最小）血圧が85 mmHg以上
- 脂質 中性脂肪値が150 mg/dl以上またはHDLコレステロール値が40 mg/dl未満
- 血糖 空腹時の血糖値が110 mg/dl以上

いいえ

はい

メタボリックシンдро́мではありませんが、腹囲に注意し、BMIが22の適正体重を目指しましょう。

いまのところまだメタボリックシンдро́мではありませんが、油断は禁物。BMIが25を超えてる場合は減量しましょう。

※BMI…体格指標を表すもので、肥満度が判定できます。

BMI  
計算法

BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)

判定表	やせ	18.5未満
	正常域	18.5～25.0
	肥満	25.0以上

- ②ちょっと息がはずむが、笑顔が保てる。
- ③5分程度で汗ばんでくる。

●健康診断を受けましょう

定期健診は必ず受け、数値を確認し、前回までの数値と比べてみましょう。内臓脂肪型肥満になると次の項目で異常値を起こしやすくなります。



動脈硬化とは？

動脈の内側にコレステロールなどの沈着物がたまり、血液の流れが悪くなったり、血管の弾力性がなくなって硬くなつた状態をいいます。動脈硬化が進むと、下記のような命に関わる大きな血管障害を引き起します。

血管がつまる

血管が狭くなったところに血栓（血のかたまり）がつまり、血流が止まる。脳でつまれば脳梗塞、心臓でつまれば心筋梗塞となる。

血管が狭まる

動脈の流れが悪くなり、十分な血液が送れなくなつて細胞が壊死したり、血管が破れて出血したりして、狭心症や脳出 bleedとなる。

血管がコブ状になる

血管が硬くなつたことで血圧に押され、コブのように膨らんだ状態となる。血管が破れやすく、たいへん危険な状態です。

ングのような有酸素運動が、特に効果的です。「やきつい」と思うペースでいつもよりもちょっと速いペース。

これらの項目に異常値がでた場合、動脈硬化が促進され、場合によつては、脳卒中、心臓病が発症します。